

(1)は、細長い薄板で、平坦な上端の両側を小さく斜めに切り落とし、下端は緩い角度で削られる。板の上端はやや厚く、下端はやや薄くなる。下位の半分を欠損するが、対称形と考えられる。

(3)は、細長い薄板の破片である。上端の平坦面が残るが、左右両端と下端を欠く。

9 関係文献

平泉町教育委員会『平泉遺跡群発掘調査報告書』六三（一九九七年）

同『平泉遺跡群発掘調査報告書』六四（一九九七年）

（菅原計二）

多賀城市文化財調査報告書第四五集

『山王遺跡Ⅰ—仙塩道路建設に係る発掘調査

報告書—の刊行

多賀城市埋蔵文化財調査センターが継続して調査している山王遺跡では、これまでに弥生時代・古墳時代前期の水田、古墳時代中・後期の集落、奈良平安時代の町並み、中世の屋敷跡などが発見されている。本書は、かかる調査結果を収録する第一分冊である。付章として、一九九〇・九二年度に実施した第一〇次・第一七次調査で出土した漆紙文書と木簡に関する考察を掲載する。既に昨年『山王遺跡Ⅰ—第一七次調査—出土の漆紙文書』が刊行済みであるが、今回は、第一〇次調査出土漆紙文書（表に戸口損益帳の草案、紙背に「百済王敬福」とあるものと具注暦）二点と、兩次調査出土木簡五点を加えたもので、本遺跡出土の漆紙文書を一覧するのに至便である。

多賀城市埋蔵文化財調査センター編集

多賀城市教育委員会発行 一九九七年三月刊

本文二三八頁、図版二八〇頁、付図六枚、A四版

頒価三〇〇〇円、送料五二〇円

問い合わせ先 多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒九八五 多賀城市中央二丁目二七一

TEL 〇二—三六八—〇一三四